

第 4 回 柏市 自立支援協議会 全体会 部会報告シート

【部会名】 相談支援部会	【部会長】 地域生活相談センター シヤル 関口 篤行
<p>1. 第 4 回相談支援部会（10月18日開催）</p> <p>（1）計画相談ワーキングチームについて（報告） 第 1 回計画相談実務者ワーキングチーム（10月17日開催）を参照</p> <p>（2）次期かしわプランについての提言 令和 2 年 2 月の全体会に向け 1 2 月部会にて提言をまとめることを確認した。 提言に向け意見交換し、セルフプランの解消、地域単位での連携、不足している地域資源、相談員の質の向上等について議論を行った。 今回の部会では意見の集約まで至らなかったため、11月に臨時の相談支援部会を開催することとなった。</p> <p>（3）当事者委員の相談支援部会への参画について 第 2 回自立支援協議会全体会にて提案があった当事者委員の増員について意見交換を行った。本会議では候補者を絞ることが出来なかったため、全体会出席委員にも諮りつつ引き続き検討していくこととした。</p> <p>2. 臨時相談支援部会（11月29日開催） 次期かしわプランについての提言 第 4 回相談支援部会での議論をふまえ意見交換を行い、下記のとおり課題を整理した。</p> <p>（1）ケアマネジメント体制の充実 相談支援専門員の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談員のスキルアップ ・新人相談員の新規計画作成時のマネジメント力の向上 ・相談内容のニーズの多様化 ・相談支援事業所、相談支援専門員の増加の取組 ・相談員のメンタルサポート ・スーパーバイズの問題 ・報酬の問題 <p>（2）相談支援体制の強化</p> <p>①障害者相談支援・コーディネート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップの相談 ・相談員のメンタルサポート 	

- ・市、委託、拠点の役割と相談員のサポート体制の強化
- ・地区割や障害種別ごとの相談体制
- ・8050問題や不登校等の地域支援

②関係機関との連携

- ・顔の見える関係と助言を受ける機会
- ・民生委員や地域包括との連携

③地域の社会資源

- ・重度障害児者（強行、医ケア等）を対象とした住まいや活動の場
- ・専門性の高い人材の確保
- ・現場職員の質の向上

上記課題を整理し、事務局で案を作成。12月部会で最終のすり合わせを行いプランの提言とすることとした。

3. 第5回相談支援部会（12月20日開催）

（1）プラン作成のためのアンケート調査結果及び県の計画策定について市の担当者から説明があった。

（2）次期かしわプランについての提言

事務局で作成した案を示し最終的な調整を行い、下記について修正を行った。

①標記について

- ・ケアマネジメント → 「その人らしい日常に寄り添える相談員の育成」
- ・QOL → 生活の質
- ・利用者視点 → 利用者目線

②プラン全体を通して追記して欲しいトピック

- ・ひきこもり、権利擁護

上記について修正を行い承認を得た。2月の全体会に提言として提出する。

（3）来年度の相談支援部会の運営について

- ・相談員の育成についての取り組み
- ・委託事業所相談員（スーパーバイザー）の育成
- ・地区別研修や新人研修、経験年数に応じたフォローアップ研修
- ・障害種別に応じた研修の企画立案

上記について意見交換を行い、来年度の取り組みとして継続議題とした。

4. 相談支援部会及び相談支援連絡会のスケジュール

(1) 相談支援部会のスケジュール

偶数月の第4金曜日を基本に開催。

(2) 相談支援連絡会のスケジュールとテーマ

回	日	主催	主な内容
7	10月	地域生活相談センター シャル	GH等支援ワーカーの役割について
8	11月	ぶるーむの風	不足している地域資源についてみんなで考えよう
9	12月	地域生活相談センター シャル	放デイ事業所との情報共有について
10	1月	権利擁護あさひ	相談支援専門員の役割と連携について
11	2月	地域生活相談センター シャル	子どもの発達段階ごとの基礎知識～保健師との連携
12	3月	柏市障害福祉課	かしわプラン（アンケート等）の進捗状況の報告

5. 第1回計画相談実務者ワーキングチーム（10月17日開催）

(1) 自立支援協議会全体会における相談支援部会の代表について

- ・ワーキングから相談支援部会の代表として、ワーキング代表の広田氏が出席。
- ・相談支援部会へのワーキングの報告は、副代表の故森山氏より報告。

(2) 開催頻度について

- ・奇数月の第3水曜日の午前10時～12時を基本とする。
- ・今年度は、11月20日、1月15日、3月18日の上記時間にて開催。

(3) 本年度の活動について

- ・相談支援連絡会のテーマについて助言する。
- ・今年度は次期かしわプランの提言に向けた議論を優先的に行うが、来年度以降のテーマについても検討していく。
- ・相談支援に関わる中で思うこと、感じること、不足している地域資源、当事者の声について等、積極的に議論する。

(4) 次期かしわプランについての提言

日常の相談支援業務をふまえ意見交換を行い、下記について意見交換した。

- ・障害福祉課の体制
- ・相談員による引き出しの違い、ジレンマ、研修の必要性
- ・相談員のメンタルサポート（地域レベルの繋がり）
- ・セルフプランの柔軟な活用（計画相談の必要性の判断）
- ・委託相談支援、地域生活支援拠点の周知
- ・計画相談支援事業所の報酬
- ・福祉機関以外（園、学校、病院）に対する相談員の認知度、啓発の必要性

- ・相談員の育成についての取り組み
- ・委託相談支援事業所相談員（スーパーバイズ）の育成
- ・地区別研修や新人研修、経験年数に応じたフォローアップ研修
- ・障害種別に応じた研修の企画立案

プランに向けての意見について、次回ワーキングで意見集約と整理を行い、相談支援部会に提案。相談支援部会でまとめることとした。

6. 第2回計画相談実務者ワーキングチーム（11月20日開催）

（1）ワーキングの運営について

新たな副代表として橋本氏（いろどり）を選任した。

（2）次期かしわプランについての提言

前回の議論をふまえて下記について相談支援部会に提案することとした。

- ・窓口の一本化や障害種別に応じたまとめ役を設置
- ・相談員が相談できるシステムの構築
- ・新人相談員に対するサポート
- ・相談員に対する処遇改善加算の検討
- ・行政と民間で協同するシステム作り

7. 第3回計画相談実務者ワーキングチーム（1月15日開催）

（1）相談支援部会からの報告

- ・12月26日に開催された自立支援協議会全体会について報告した。
- ・第5回相談支援部会（12月20日開催）にて承認された次期かしわプランの提言について説明を行い承認された。

（2）来年度の運営について

- ①来年度のワーキングでは、事例検討を行い、地域の課題や現場相談員に共有できる注意点などを洗い出し、相談支援部会に提案する。
- ②相談支援連絡会のテーマについて下記提案があった。
 - ・事例検討をたくさん行えると良い。
 - ・相談員の質の向上をもっと取り組んでいったほうが良い。
 - ・ケアプランの書き方など、基礎的な部分も含めて取り組めるほうがよい。
 - ・連絡会開催の分散化（同日、別場所での開催）
 - ・2月相談支援部会にて副代表から提案して頂くこととした。

8. 柏市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業

(1) 第1回実務者会議（5月22日開催）

昨年度までの退院・退所を促進する「地域移行支援事業」から、地域生活者を支える「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」へと目的が広げられた。それにより、地域をより包括的に支える体制とするため、実務者会議と代表者会議の開催、及び実務者会議の委員構成に訪問看護ステーションと地域包括支援センターを新たに迎え、保健・医療・福祉関係者による重層的な体制を作った。

(2) 第2回実務者会議（7月24日開催）

実務者会議で挙げられた柏市の地域課題の中で、「障害福祉」のカテゴリー部分について、意見交換を行った。

(3) 8月、9月コア会議開催

第1回、2回の実務者会議の意見を基に、コアメンバーにより詳細な課題のカテゴリー分類を行い、取り組みの優先順位をつけた。また、5年後の目標達成を目指し「ロードマップ」を作成し、目標ごとにワーキングチームを作り、具体策を検討することとした。

《目標》

- ①市民や関係者が精神疾患や精神保健に関する正しい理解を深め、精神障害者が安心して生活できる体制づくりの充実
- ②地域医療の連携体制の充実と社会生活支援プログラムの構築
- ③障害福祉と介護との有機的な連携や援助者自身のセルフケアの向上

(4) 第3回実務者会議（9月25日開催）

地域課題に対し、市ですでに取り組んでいる内容を整理するため、委員へ向けアンケート調査を実施。結果をもとに、「普及啓発」「医療課題」「福祉課題」の3分野に分かれ、意見交換を行った。

(5) 第4回実務者会議（11月27日開催）

- ・前回に引き続き、各ワーキンググループにて、具体策の検討を行った。
- ・グループのメンバーを固定し、今年度から来年度にかけ、取り組み内容とスケジュールを検討していくこととした。

(6) 代表者会議（10月3日開催）

代表者会議の委員の方々に事業の説明を行い、柏市の現状と課題、実務者会議での取組状況の説明を行った。また代表者委員の方々から、専門的な意見や助言を頂戴した。

(7) 今年度の取り組みについて（まとめ）

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業がスタートし、委員の再構成、市の課題抽出と取り組みへのロードマップづくりを行った。来年度は柏市市民のメンタルヘルスへの意識向上や精神障害に対する理解促進の土台作りを目標に、地域への普及啓発活動や、医療・福祉とのスムーズな連携を目指した「情報連携シート」の作成など、様々な対策にむけ取り組む。また、医療・福祉・介護と地域の様々な分野との連携を深めるため、「顔見え会議」実施の意見が上がっている。対策実行に向けては、PDCA サイクルに沿って実施し、今後、市の障害福祉計画への反映や、5年後の目標達成を目指していく方針。

【今後の活動予定】

- 1 障害者相談支援連絡会：毎月第3金曜日を基本に開催。
- 2 計画相談実務者ワーキングチーム：奇数月の第3水曜日
- 3 柏市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業：2ヶ月に1度開催。

【部会名】 はたらく部会	【部会長】 よつば工房 室山 圭史
<p>1. 第3回はたらく部会（令和2年1月21日開催）</p> <p>(1) ノーマライゼーションかしわプラン2021策定に向けた意見のまとめ 各連絡会であがった意見を集約し、最終確認を行った。訂正する文言や言葉の意味を確認。定着支援の切り口や、工賃向上に向けたアピール方法など、今後のテーマとして詳細を詰めていくこととした。意見のまとめについては、「6. 提言に向けた検討状況」にて後述。</p> <p>(2) 当事者の参画について 現在の部会内容を知っていただくため、柏市手をつなぐ育成会会長・中野氏にご参加いただいた。はたらく部会への当事者参画の主なねらいとしては、①当事者目線を伝える②変化していく社会状況を把握する③社会参加としての「働く」を一緒に考えていくこと。柏障連へ報告をしたのち、出席いただく委員を決め、情報交換を継続する。</p> <p>(3) 来年度について 新たな体制となる中で、はたらく部会の意義などを再度明確にしていく必要がある。今年度はプランを通して課題の抽出ができたため、部会が中心となって研修等を企画するのも良いとの意見がある。今年度との大きな違いは当事者団体の参画があるため、情報交換を密に行いながら、しっかりと意見交換を行っていききたい。</p> <p>2. 第3回一般就労連絡会（11月27日開催） 定着支援事業について研修を実施。障害者就業・生活支援センター「就職するなら明朗塾」の熊谷氏（副センター長、主任職場定着支援担当）をお呼びし、「定着支援における生活支援について」をテーマに講演。就労・定着支援のポイントやアセスメントの重要性などについて、お話をいただいた。</p> <p>3. 第4回一般就労連絡会（令和2年1月20日開催）</p> <p>(1) ノーマライゼーションかしわプラン2021への提言内容 定着支援事業の課題について最終確認を行った。新たな課題や意見としては、支援側と企業側との温度差、支援者の質の向上、適切なサービスや仕事の選択、制度を正確に知ってもらう機会作りなど。また、若年層や高齢障害者の支援のほか、重複障害の方の相談も増えているため、提言内容については「幅広い年代や障害に対する就労支援」等の文言が望ましいとの意見が上がった。</p>	

(2) 次年度の検討課題について

様々な課題が抽出されたため、次年度は部会を通して何を目的に連絡会を開催していくのか整理する必要がある。次年度は当事者団体の参画があるため、情報交換を密に意見交換を行う。また、具体的な意見としては、シルバー人材を雇用している企業の講演や意見交換などがあがった。

4. 第2回福祉的就労連絡会（10月30日開催）

(1) 工賃向上のための作業切り出しや福祉的就労連絡会・はたらく部会で出来る事についてのグループワーク

工賃向上に向けての具体的な取組みについてグループワークを実施。連絡会を通して情報交換をしつつ、企業との取組み（作業の切り出しやマッチング）、販売会を増やす、高齢の方に対する支援方法について研修を行うなどの意見があがった。

(2) ノーマライゼーションかしわプラン2021政策への提言について

企業・行政・事業所との繋がりについて意見が多く上がった。また、福祉的就労に対する居場所としてのニーズをどこで受け止めていくか、はたらく部会を通じ、他部会や関係機関と情報交換を進めていきたい。ほか、若手職員の育成、高齢障害者や就労継続支援A型・B型から一般就職する方へのサポート体制についても、提言に含めていきたい。

5. 第3回福祉的就労連絡会（令和2年1月20日開催）

(1) 各事業所の紹介ページの作成について

松戸市を参考に、紹介ページの作成を提案。工賃向上に向けた動きとして、当事者や企業へのアピール、仕事のマッチングに活用すること等を目的とする。また、柏市の障害者優先調達推進法におけるマッチングにも活用できることが考えられる。来年度8月に完成を目指し、更新頻度は1年ごとを予定。

(2) 今年度の振り返り及び次年度の検討課題についてのグループワーク

各グループで振り返りを行うとともに、紹介ページについても検討を行った。紹介ページを作ることは賛成意見がほとんどであったが、WAM ネットや学校の事業所一覧との差別化や、どこをターゲットに作成するか目的の整理、公開項目について等、早い段階で詳細を詰める必要がある。

(3) ものづくりマルシェ報告（12月6日開催）

今年度は市内福祉事業所より10事業所が参加。全体の売り上げは前年度より多少上がっている。食品関係は売れているが、物品の売り上げが伸びない。来年度も実施予定のため、周知方法を検討する必要がある。

6. 提言に向けた検討状況

下記(1)(2)について、引き続き、重要施策として取り扱っていただくことを提案する方向で検討している。

(1) 職場定着支援の充実

- ・就職後の定着率が課題。関係機関と連携をし、働く障害者が気軽に相談できる場の確保や日常生活上の支援を受けられるよう、更なる体制・連携の強化を図る。共通の情報シートを作成する等、具体的な方法を検討していきたい。
- ・障害者の就労の間口が広がってきたことから、利用者・企業からの幅広いニーズに対応できる知識と支援力が求められている。兼任職員の負担、定着支援の時間確保が困難である等、業務負担の増加がみられるため、就労定着支援サービスが円滑に実施されるよう人材育成を図りたい。
- ・高齢化や就労を希望する方の障害の重度化が進んでいるため、「幅広い年代や障害に対する就労支援」の文言をいれてほしい。
- ・特別支援学校の卒業生を含む、若年層に対する就労サポートが不足している。また、就労の間口が広がったことにより、高齢障害者の相談や、就労移行支援を使わずに就労継続支援A型・B型から一般就労した方も増えている。就労定着支援サービスの対象ではない方々への支援として、既存のジョブコーチ派遣事業に力を入れていくことを提案する。
- ・就労定着支援の質の向上とともに、就労定着支援終了時の引継ぎについても、今後は大きな課題となる。

(2) 工賃向上の取組強化

- ・工賃向上へ向けた取り組みとして事業所のPR活動に力を入れていくことを検討している。柏市協力のもと市ホームページ上に各事業所紹介ページを作成することにより、当事者や企業へのアピール、柏市の障害者優先調達推進法におけるマッチングに活用できることが考えられる。
- ・保護者を含めた当事者の方々や企業に対して、制度や福祉的就労事業所を知ってもらう取組を行いたい。各事業所単位ではなくはたらく部会の企画として、販売会、見学会、体験会等の機会を増やしていきたい。
- ・障害の多様化による作業能力の幅が大きいこと、特性に対する配慮から安定した収入を上げることが困難であること、利用者の高齢化による能力の低下や居場所としてのニーズが増加していることなどが、工賃向上の課題にも繋がっている。利用者のニーズの変化をどのように受け止めていくかが課題。
- ・定着支援と同様、障害者の就労の間口が広がってきたこと、高齢化や障害の重度化が進んでいること、ニーズの変化など、福祉的就労に求められる支援力も大きくなっている一方で、マンパワー不足がみられる。現場で役立つ知識を得られるよう、様々な障害に対する研修会や工賃向上に成功した事業所との意見交換の場などを開催し、人材育成を図りたい。

【今後の活動予定】

○一般就労連絡会

- ・令和2年2月7日、流山市にて4市合同企業セミナーを開催。

5. 提言に向けた検討状況

- (1) サポートファイルについて、チラシを作成し、周知活用を目指していく。
- (2) 放課後等デイサービスの利用定員の弾力性を持った利用の仕方について検討。柏市地域生活支援事業である日中一時支援の有効活用、弾力化やそれに伴う報酬単価引き上げ、定員を超過する場合の対応について意見があがっている。
- (3) 障害特性に応じた放課後等デイサービス事業所の不足について、事業所数は延びているものの、肢体、重心、医ケア、発達など、通える事業所が少ない実態がある。
- (4) 放課後等デイサービスの区分認定の見直しについて、障害児の指標該当児の判定は、療育手帳の等級をもとに利用している放課後等デイサービス事業所の聞き取りを入れることを検討したい。
- (5) 重症心身障害児の児童発達支援の支給要件について、放課後等デイサービスは超重症児スコアが一定以上であれば療育手帳がなくても受け入れ可能だが、児童発達支援はスコアの運用がない。整合性や基準の見直しの検討が必要。
- (6) 保育所等訪問支援の対象について、小学校1年生だけでなく、国が示す対象年齢まで拡大することを検討したい。

上記の検討事項をもとに、事務局会議にて提言事項の整理を行う。

【今後の活動予定】

1 早期支援担当者会議

- ・ 第5回 2月26日(水) 15時半～17時

【部会名】 くらし部会	【部会長】 社会福祉法人 彩会 平山 隆
<p>1. 第2回グループホーム等連絡会（10月25日開催）</p> <p>（1）講演 「グループホーム等支援ワーカーの役割について」 （松戸圏域障害者グループホーム等支援ワーカー：桑田良子氏）</p> <p>（2）グループワーク</p> <p>①テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習を受けて感じたこと ・グループホーム等支援ワーカーに期待する役割 <p>②主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き情報やグループホームの特徴や情報を集約し、発信してほしい。 ・利用者とグループホームのマッチングを第三者として行ってほしい。 ・新規設立時のバックアップをしてほしい。 ・法律や制度を教えて欲しい。災害時の給付金などの情報が知りたい。 ・グループホームの質の向上、スキルアップを目的として、研修機会を増やしてほしい。 ・日々の悩みや相談にのってほしい。 ・グループホームの横の繋がりがほしい。 <p>2. 第3回居宅支援連絡会（11月20日開催）</p> <p>（1）柏市からの報告</p> <p>（2）当事者ヒアリングの報告</p> <p>（3）グループワーク（事例検討）</p> <p>①テーマ 精神障害者の居宅支援（引きこもりのケース）</p> <p>②主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引きこもりになった原因がつかめれば改善できるかもしれない。 ・通院介助でヘルパーを入れて、社会参加を促してみてもよいのではないか。 ・親なき後を考えて、このタイミングで他者との接点をもつことが必要。 <p>3. 第3回グループワーク等連絡会（12月24日開催）</p> <p>（1）話題提供 「隣の世話人さん何してる？～食事提供から始まるあれやこれ～」 （松戸圏域障害者グループホーム等支援ワーカー：桑田良子氏）</p>	

(2) グループワーク

(3) 発表

- ・世話人の求人に記載されていた内容をはるかに超える業務を担っているところもある。
- ・ヘルパーは資格が必要だが、なぜ世話人は資格がいらぬのか。
- ・重度化、高齢化について考えていかなければいけない。
- ・自分から気持ちをうまく伝えられない人の場合、体調変化や食事形態の見直し、排便等もチェックしていくが必要ある。

4. 第3回くらし部会

(1) 各連絡会の報告

(2) 今年度の部会での課題整理、自立支援協議会への提案

- ・グループホーム等支援ワーカーの設置について、どこまで役割を担うのか明確にする必要がある。また、地域生活支援拠点、委託相談、指定相談などの機関と役割が重複する部分があるため、役割分担をしていく必要がある。
- ・身体障害者、強度行動障害、医療的ケアに対応するグループホームの数が少ない。どのようなグループホームが必要なのか、方針を明確にしてほしい。

(3) ノーマライゼーションかしわプラン策定に向けた意見の整理（来年度に向けての意見交換）

5. 提言に向けた検討状況（令和元年度検討状況）

(1) グループホーム等連絡会

グループホーム等支援ワーカーの設置について検討中。10月25日（金）第2回グループホーム等連絡会にて、相談支援連絡会と合同で開催。「グループホーム等支援ワーカーの役割」をテーマに松戸圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 桑田良子氏をお招きして講演をしていただき、グループホーム等支援ワーカーの役割について理解を深めた。グループワークの意見やアンケートの結果から、グループホーム等支援ワーカーが必要であると感じた方が多かった。今後、部会や連絡会でさらに議論を深めていく。柏市のグループホームの課題としては、身体障害者、強度行動障害、医療的ケアに対応するグループホームの数が少ない。プランの中にグループホームの増設だけではなく、「どのようなグループホームが必要なのか」等の方針を明確に明記していただくよう要望したい。

(2) 居宅支援連絡会

看取り、知的障害者の移動支援、引きこもりの精神障害者の事例検討を行った。事例を通して、特にヘルパーの人材不足による課題が多くあげられた。人材不足は、昨年度から課題となっている。そのため、暮らし部会からの要望で、10月に柏市主催で就職フェアを開催。開催場所や周知方法について課題が残るが、来年度以降も就職フェア等を開催し、人材不足改善のための取組を実施してほしい。

【今後の活動予定】

来年度の実施回数は、暮らし部会年3回、グループホーム等連絡会年3回（内、相談支援連絡会と合同、松戸圏域と合同）、居宅支援連絡会年3回の開催予定。